

道内におけるリニューアル方式の検討状況等について

1. 函館市のリニューアル方式の状況について

(1) 函館市日乃出工場の状況

【現施設】

供用開始：昭和50年

施設規模：420t/日（120t/日×2 180t/日×1）

処理方式：ストーカ式

【新施設】

供用開始：令和10年

施設規模：300t/日（100t/日×3）

処理方式：ストーカ式

(2) 主な聴き取り内容

①リニューアル方式における焼却炉の更新について

300t/日の施設を建設する場合、150t/日の焼却炉を2炉整備するのが一般的だが、既存の焼却炉よりも大きい規模の焼却炉を整備すると地盤の強度が不足し、また、技術的にも困難であることから、3炉構成による整備を実施することになった。

②更新工事期間中の余剰ごみ処理について

更新工事期間中、1日あたり20tから30tのごみ処理能力が不足する時期が生じることが予想される。室蘭市や札幌市に搬送するとなると莫大な費用がかかるため、近隣の施設で処理するなどの方法を検討している。

③概算事業費について

概算事業費は約230億円となっているが、これは施設の供用開始までに必要な整備費であり、更新期間中のごみ処理費やその後の建屋の補修等にかかる事業費は別途必要になる。

2. 近隣ごみ処理施設の余剰ごみの受入れ可能性について

(1) 近隣ごみ処理施設の状況について

【南十勝複合事務組合】

施設名：南十勝環境衛生センター

供用開始：平成5年

施設規模：28t/8h（14t/8h×2）

処理方式：ストーカ式

【北十勝2町環境衛生処理組合】

供用開始：平成9年

施設規模：15t/8h

処理方式：ストーカ式

【釧路広域連合】

施設名：清掃工場

供用開始：平成18年

施設規模：240t/日（120t/日×2）

処理方式：流動床式ガス化熔融炉

【北見市】

施設名：クリーンライフセンター

供用開始：平成13年

施設規模：165t/日（55t/日×3）

処理方式：流動床式

(2) 各施設の受入れ余力について

リニューアル手法による新施設整備を行う場合、炉の入替工事期間中、ごみ処理能力が不足する時期が生じることが予想されることから、近隣施設の受入れ余力について、下記のとおり調査した。

聴取先	施設規模	受入れ余力
南十勝複合事務組合	28 t /8h	なし
北十勝2町環境衛生処理組合	15t/8h	なし
釧路広域連合	240t/日	なし
北見市	165 t /日	約10t/日

